



一宮支部 水野 元彰

日時 平成29年2月1日(水)12時
場所 CBC放送センター7階 スタジオ収録
放送日 平成29年2月8日(水)、2月15日(水)

第5回・第6回を担当しました一宮支部の水野です。

収録の10日ほど前でしょうか、藤吉広報部長から収録用の原稿が送信されてきました。内容は境界立会に関するごく一般的なことなのですが、これを会話に乗せて話すことの難しさを痛感しました。噛まないように意識すると棒読みになり、棒読みにならないように意識しすぎると噛むというありさま。ラジオ収録の先輩から「アドリブで振ってくれるから大丈夫」と聞いてはいるものの、それを聞いて安心というわけにはいきませんでした。

当日、平井副会長と待ち合わせをし、その後、担当者の方と原稿内容の打合せに入りました。第5回の原稿については大きな修正はなかったのですが、第6回の原稿については私の要望で修正をお願いしました。ラジオで放送する内容の修正となると大事にとらえてしましますが、担当の方にとっては日常茶飯事なのでしょうか、打合せはものの数分で終了しました。



打合せ中

この後に先ほどの修正内容がつボイさんと小高さんに伝えられるわけですが、ここはもっと短時間！プロとプロの会話はこんなものかもしれません。自分が内容の変更をお願いしたにもかかわらず、自分だけが解っていないような感覚になりました。

スタジオへ入ってお二人に挨拶をし、収録の打合せ前に少し雑談をしましたが、つボイさんも私も一宮の出身ということでローカルな話に花が咲きました。特に緊張していたわけではないのですが、最初の雑談でリラックスできたような気がします。

収録に入ってしまうとそこからはあっという間。無駄なことを考える余裕もなく、お二人の軽妙な会話に乗り、振られたことに答えるだけで滞りなく収録できてしまう感じです。原稿を見てはいるのですが、インタビューに答える感じではなく、あくまでも会話として進んでいくため、棒読みになってしまうのも避けられたかなと思います。

収録後はお二人からサイン色紙をプレゼントされ、つボイさんと写真撮影。素人にとってはビッグイベントであったラジオ収録もつボイさん、小高さんをはじめとする多くの皆様に支えられ、滞りなく無事に終了しました。

地道な活動ではありますが、今回の放送で少しでも土地家屋調査士の認知度が高まり、境界確認の重要性を理解いただければ幸いです。



つボイさんと記念撮影